

第10章 防災指針の検討

10-1 防災指針の検討の流れ

10-1-1 検討のフロー

防災指針の検討については、次のフローに基づき進めていきます。

本検討の対象範囲は、本町の用途地域とします。

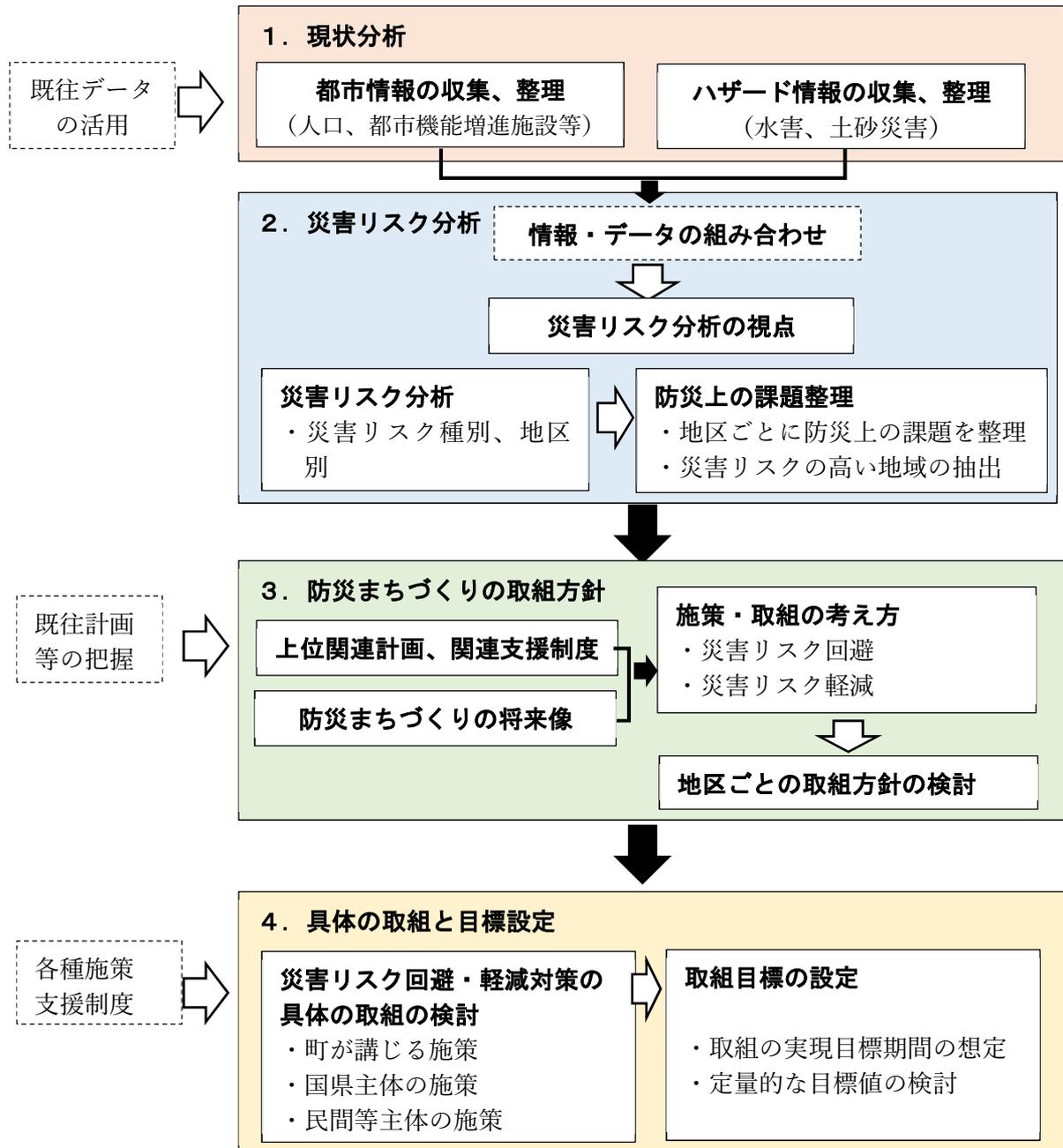


図 防災指針の検討の流れ

10-2 現状分析

10-2-1 ハザード情報の収集、整理

災害ハザード情報は以下のとおりです。

なお、収集する資料の範囲は、本町の用途地域を対象とします。

表 収集した災害ハザード情報

種別	ハザード情報		備考
洪水	・ 浸水想定区域	計画規模 (L1)	・ 数10年～数100年に1度程度の規模の大雨で河川が氾濫した場合に浸水が想定される浸水区域
		想定最大規模 (L2)	・ 1000年に1度程度の降雨量を上回る規模の大雨で河川が氾濫した場合に浸水が想定される浸水区域
	・ 浸水継続時間		・ 想定最大規模(L2)の降雨に伴う洪水により、浸水深50cmに達してから、水が引くまで(浸水深が50cmを下回るまで)の時間
	・ 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)		・ 想定最大規模(L2)の降雨に伴う洪水氾濫流により、家屋が流失・倒壊するおそれがある範囲
	・ 家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)		・ 想定最大規模(L2)の降雨に伴う洪水時の河岸侵食により、家屋が流失・倒壊するおそれがある範囲
土砂災害	・ 土砂災害警戒区域		・ がけ崩れ等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域

(1) 浸水想定区域

①計画規模 (L1)

五戸川の氾濫による計画規模 (L1) の浸水想定として、浸水深 0.5m~3.0mを中心として浸水想定区域が指定されています。

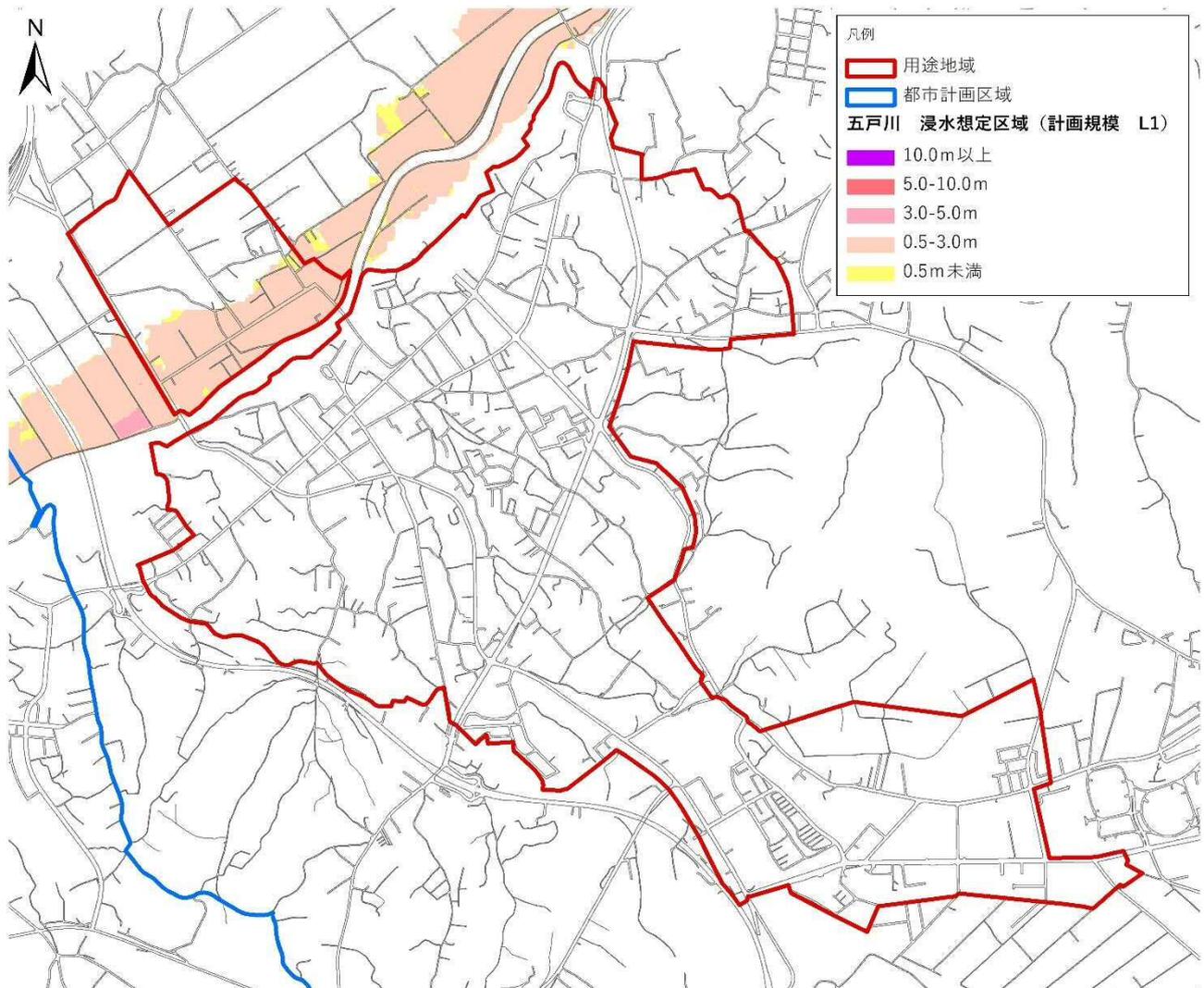


図 浸水想定区域 (計画規模 L1)

資料：県浸水想定区域データより作成

②想定最大規模（L2）

五戸川の氾濫による想定最大規模の浸水想定として、最大で浸水深 5.0m～10.0mの浸水想定区域が指定されています。

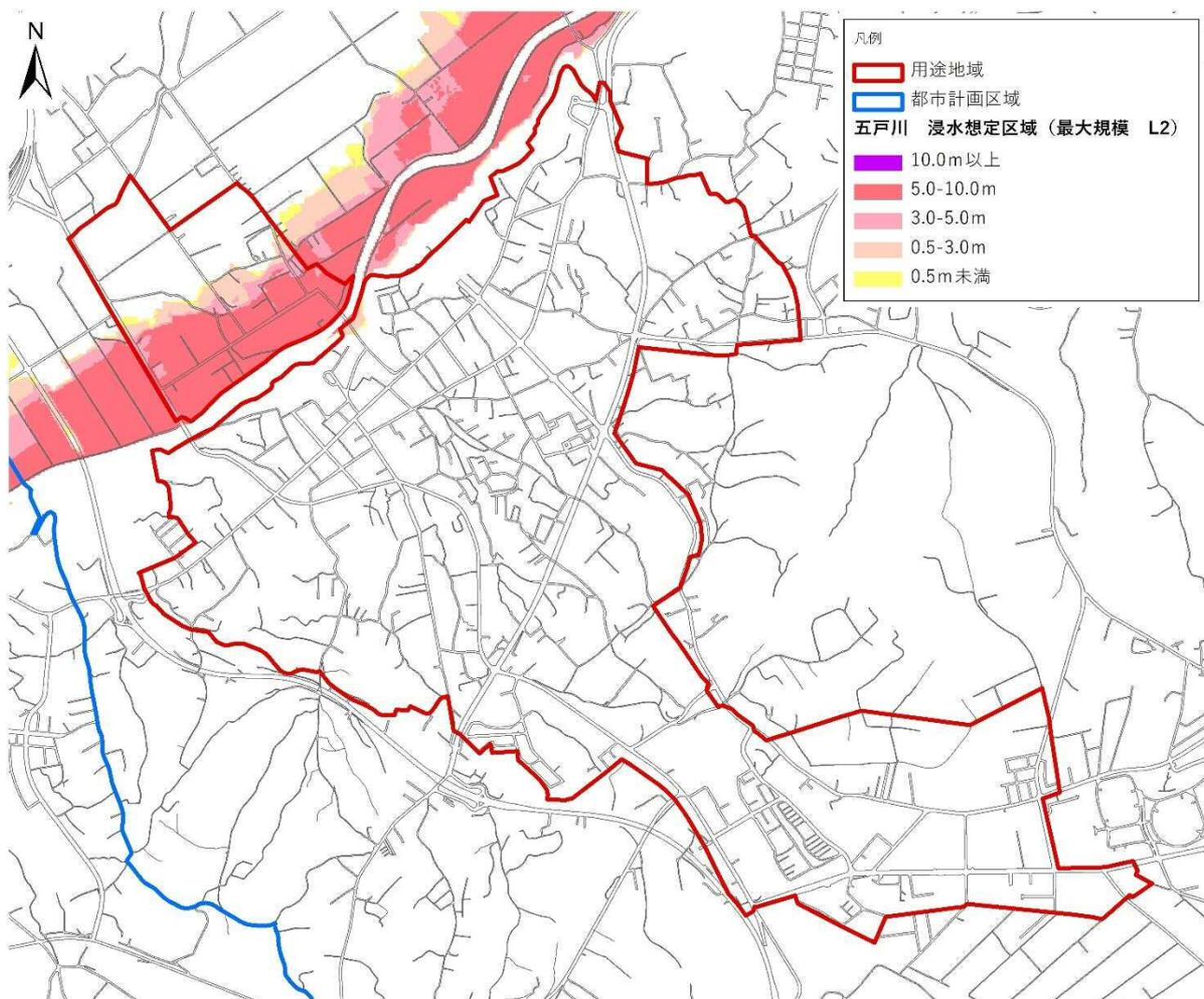


図 浸水想定区域（想定最大規模 L2）

資料：県浸水想定区域データより作成

(2) 浸水継続時間

浸水継続時間は、洪水時に避難が困難となる一定の浸水深を上回る時間の目安を示すものであり、浸水深0.5mに達してからその水深を下回るまでにかかる時間を示しています。

五戸川の浸水継続時間は、最大で72時間（3日間）未満の箇所がみられます。

なお、住民の避難生活に必要な食料等の備蓄が不足し、健康障害の発生や、生命に関わる危機が生じるおそれのある、浸水継続時間72時間（3日間）以上の箇所はみられません。

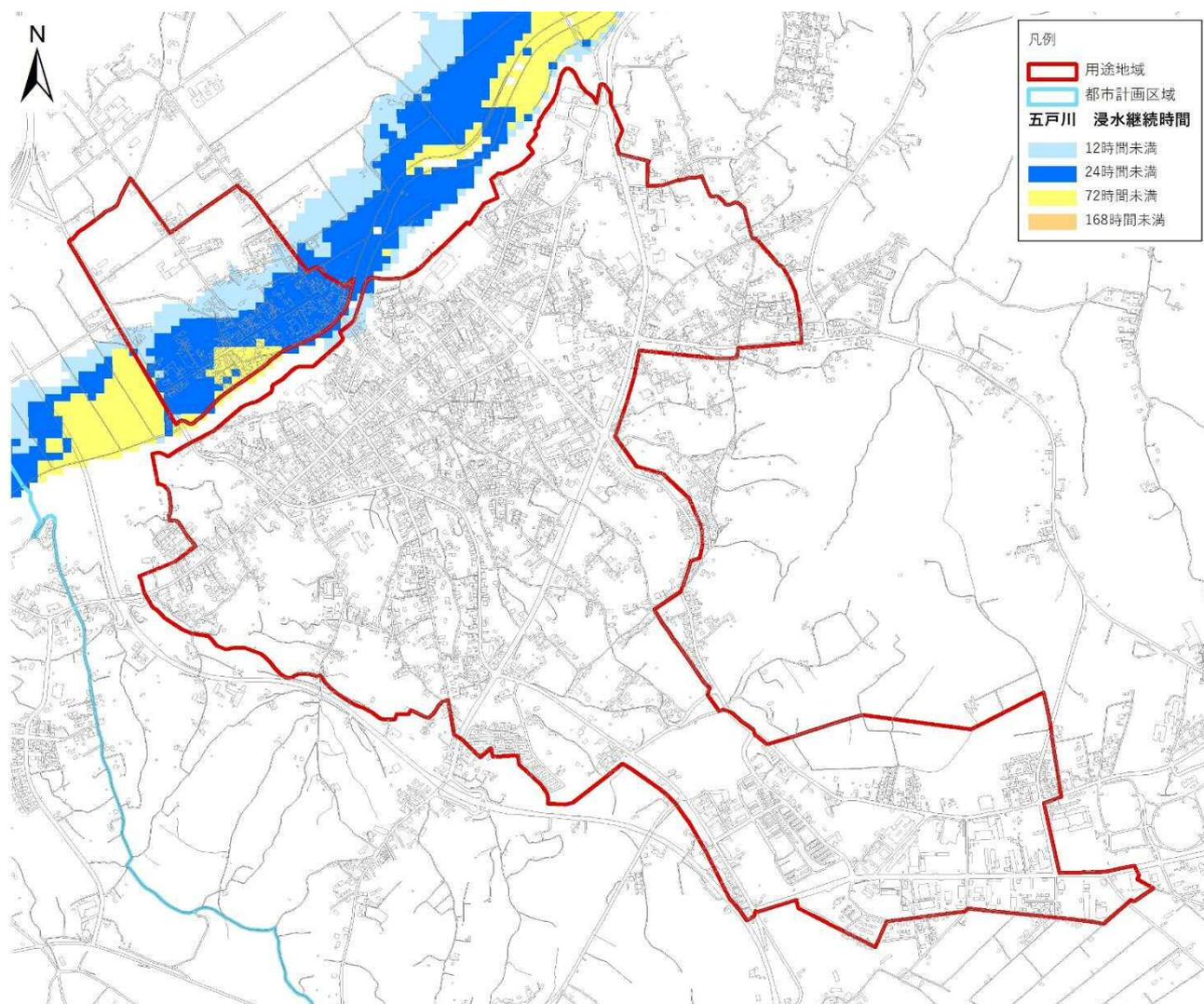


図 浸水継続時間

資料：県浸水想定区域データより作成

(3) 家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋倒壊等氾濫想定区域は、想定し得る最大規模の降雨(想定最大規模降雨)により、近傍の堤防が決壊等した場合に、洪水氾濫流または河岸侵食により一般的な建築物が倒壊・流出する等の危険性が高い区域のことです。

五戸川において、氾濫が発生するおそれがある家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流、河岸侵食）が河川沿いにみられます。

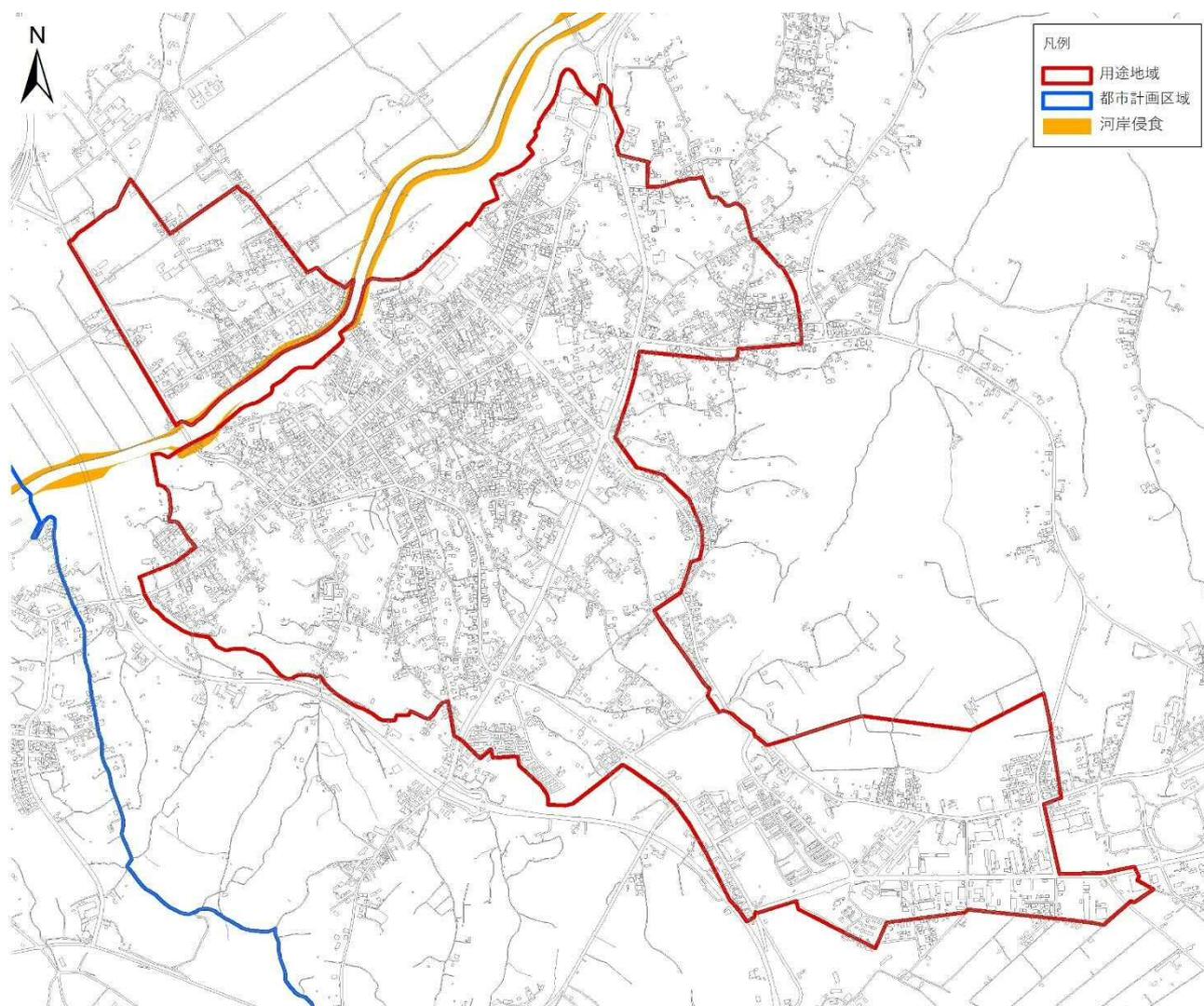


図 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）

資料：県浸水想定区域データより作成

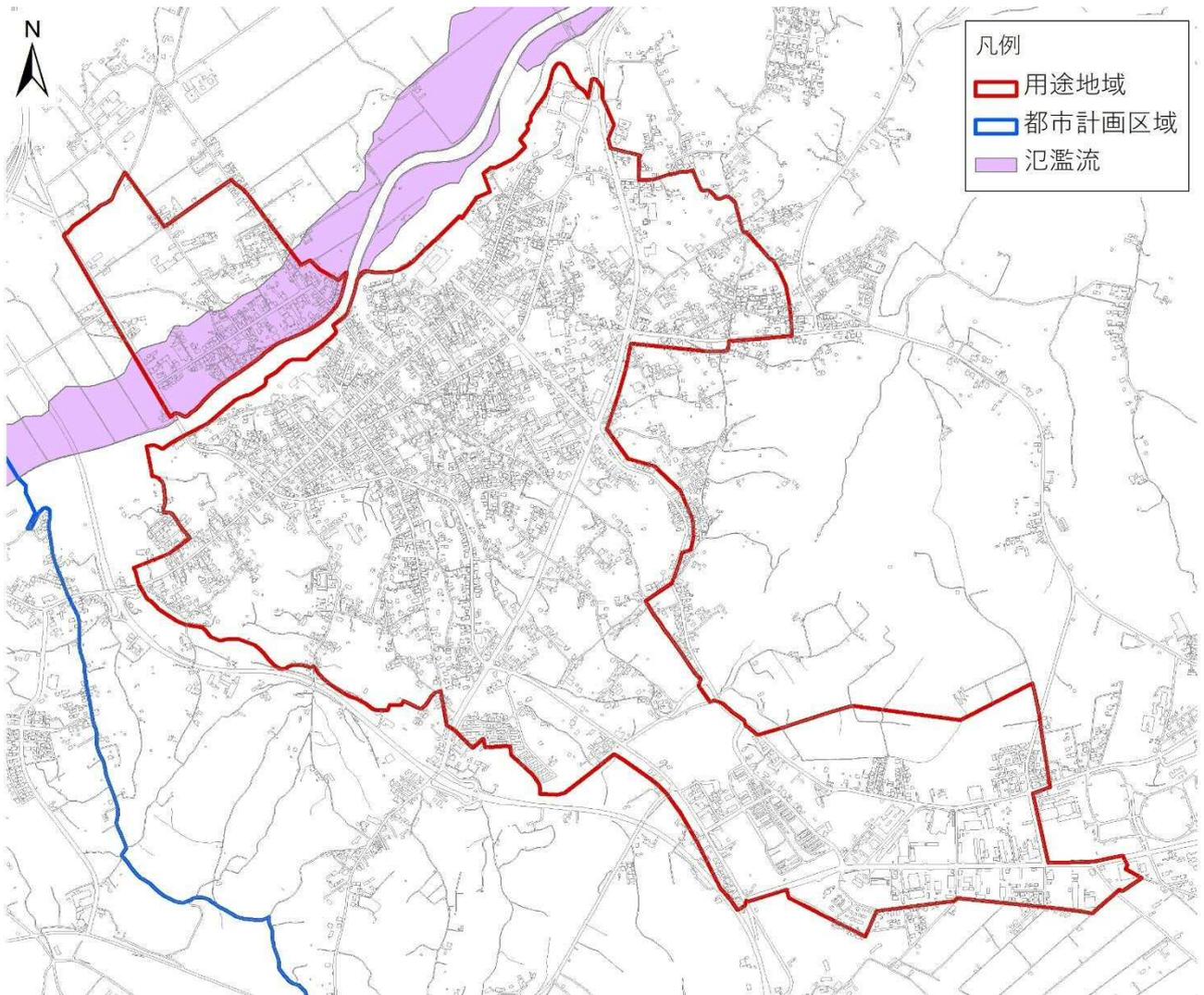


図 家屋倒壊等汎濫想定区域（汎濫流）

資料：県浸水想定区域データより作成

(4) レッドゾーン・イエローゾーン

用途地域内にはレッドゾーン・イエローゾーンが指定されている箇所がみられます。

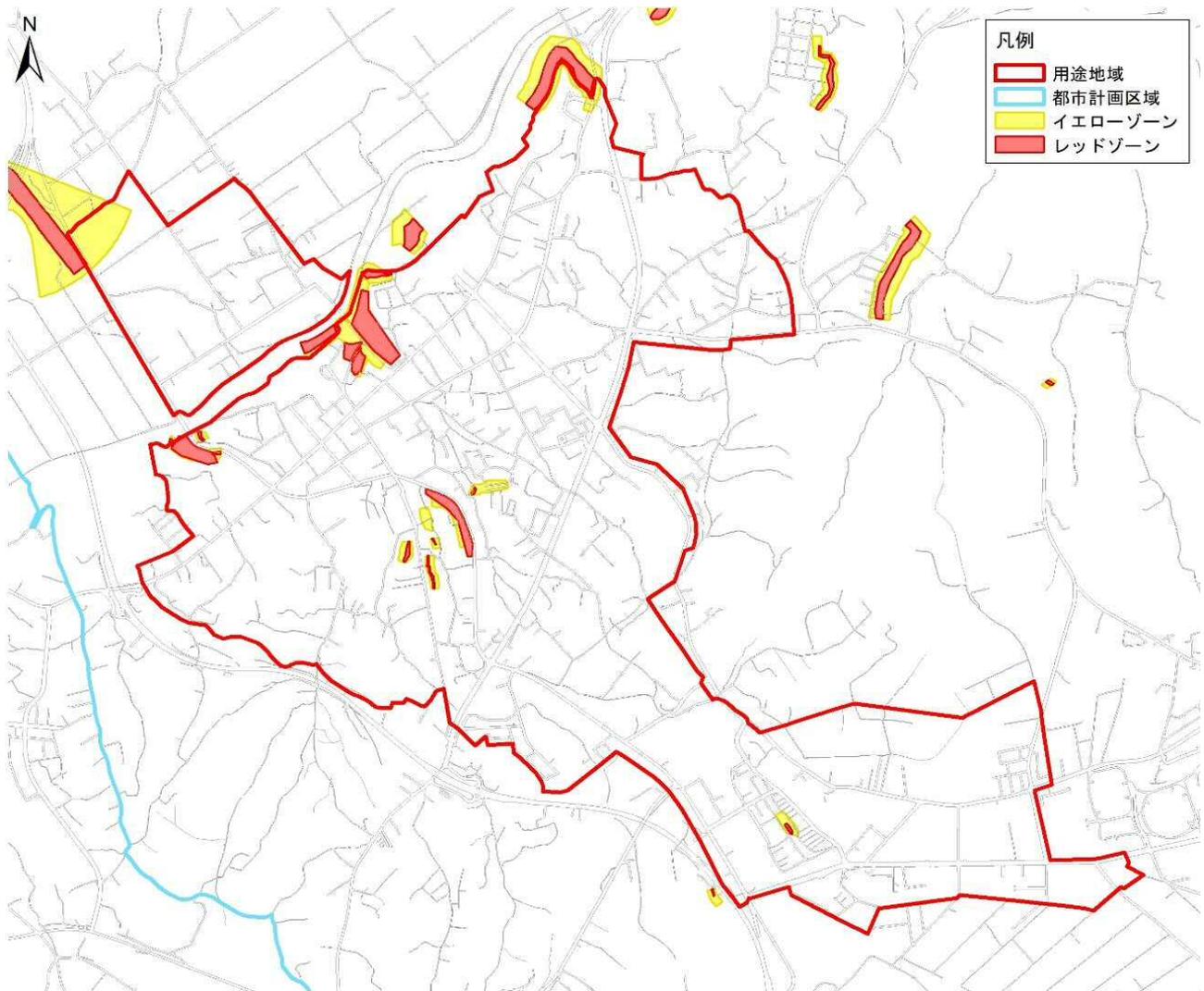


図 レッドゾーン・イエローゾーンの指定状況(再掲)

資料：国土数値情報より作成

10-2-2 都市情報の収集、整理

(1) 防災機能

五戸町の指定避難所は以下のとおりです。

表 指定避難所一覧

No	施設・場所
1	五戸ドーム
2	五戸小学校
3	図書館
4	町立公民館
5	五戸高等学校
6	五戸中学校
7	川内中学校
8	農村環境改善センター瑞穂館
9	切谷内小学校
10	上市川小学校
11	豊間内地区コミュニティセンター
12	浅水活性化センター
13	倉石コミュニティセンター
14	倉石スポーツセンター
15	石沢駒踊伝承館
16	倉石小学校
17	倉石中学校
18	明幸園
19	倉石温泉
20	ひばり野団地集会所
21	上市川団地集会所

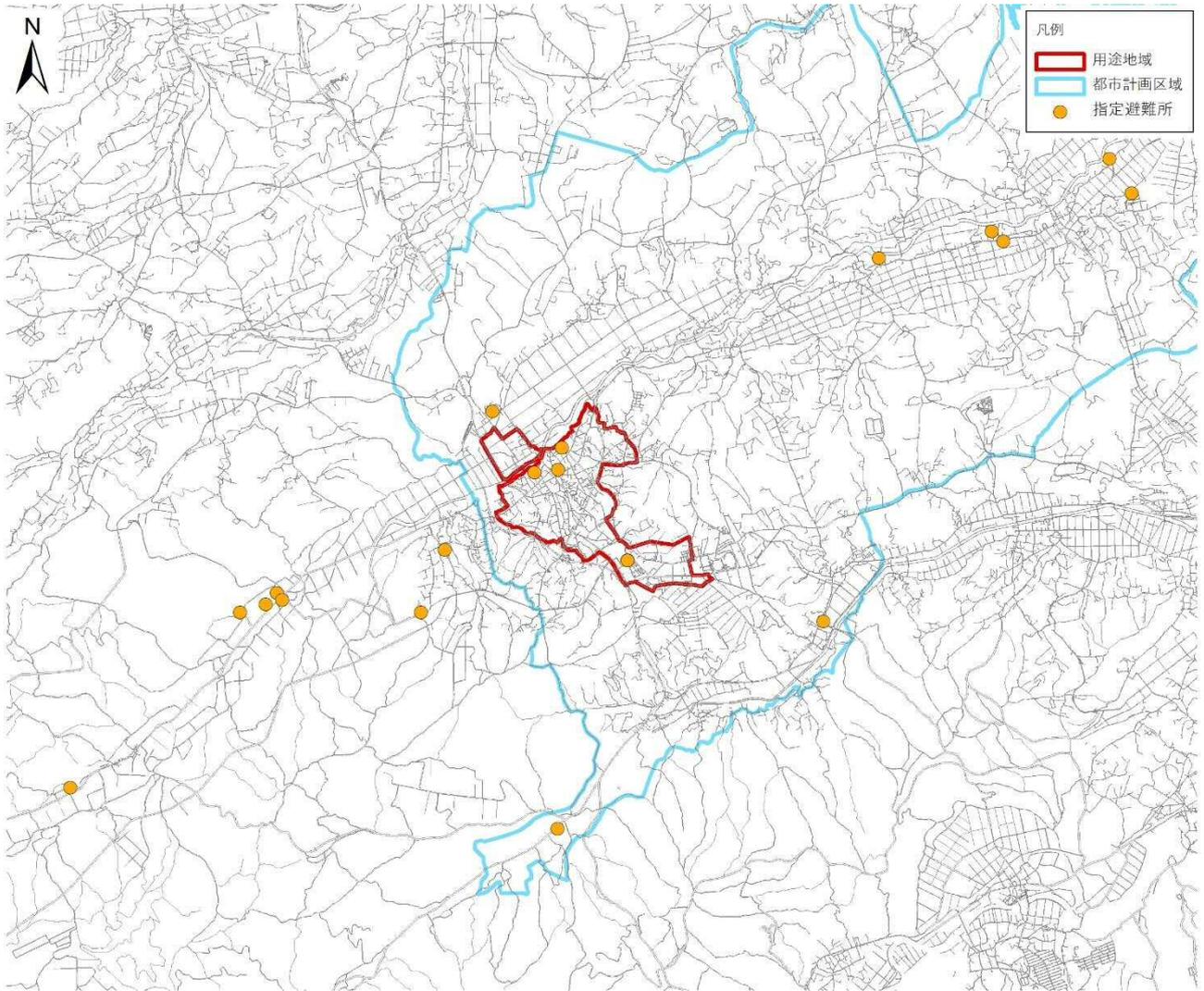


図 指定避難所の分布

資料：このへ防災マップ令和3年版より作成

10-3 災害リスク分析と防災・減災まちづくりに向けた課題の抽出

10-3-1 災害リスク分析

(1) 災害リスク分析の視点

ここでは、災害ハザード情報に人口や建物の分布状況等を重ね合わせ、様々なパターンのリスク分析を行います。

表 重ねる情報

	ハザード情報	重ねる情報	分析の視点
①	浸水想定区域 (想定最大規模 L2)	人口密度 (平成 27 年国勢調査)	浸水のおそれのある居住地の分析
②	浸水想定区域 (想定最大規模 L2)	都市機能増進施設	浸水のおそれのある施設の分析
③	浸水継続時間	人口密度 (平成 27 年国勢調査)	浸水が継続するエリアと居住地の分析
④	浸水継続時間	指定避難所	浸水が継続するエリアと指定避難所の誘致圏の分析
⑤	家屋倒壊等氾濫想定区域	人口密度 (平成 27 年国勢調査)	氾濫流等により、倒壊のおそれがある居住地の分析
⑥	家屋倒壊等氾濫想定区域	都市機能増進施設	氾濫流等により、倒壊のおそれがある施設の分析

①浸水想定区域（想定最大規模（L2））× 人口密度

五戸川の氾濫による浸水想定区域（想定最大規模（L2））と平成 27 年の人口メッシュを以下に示します。

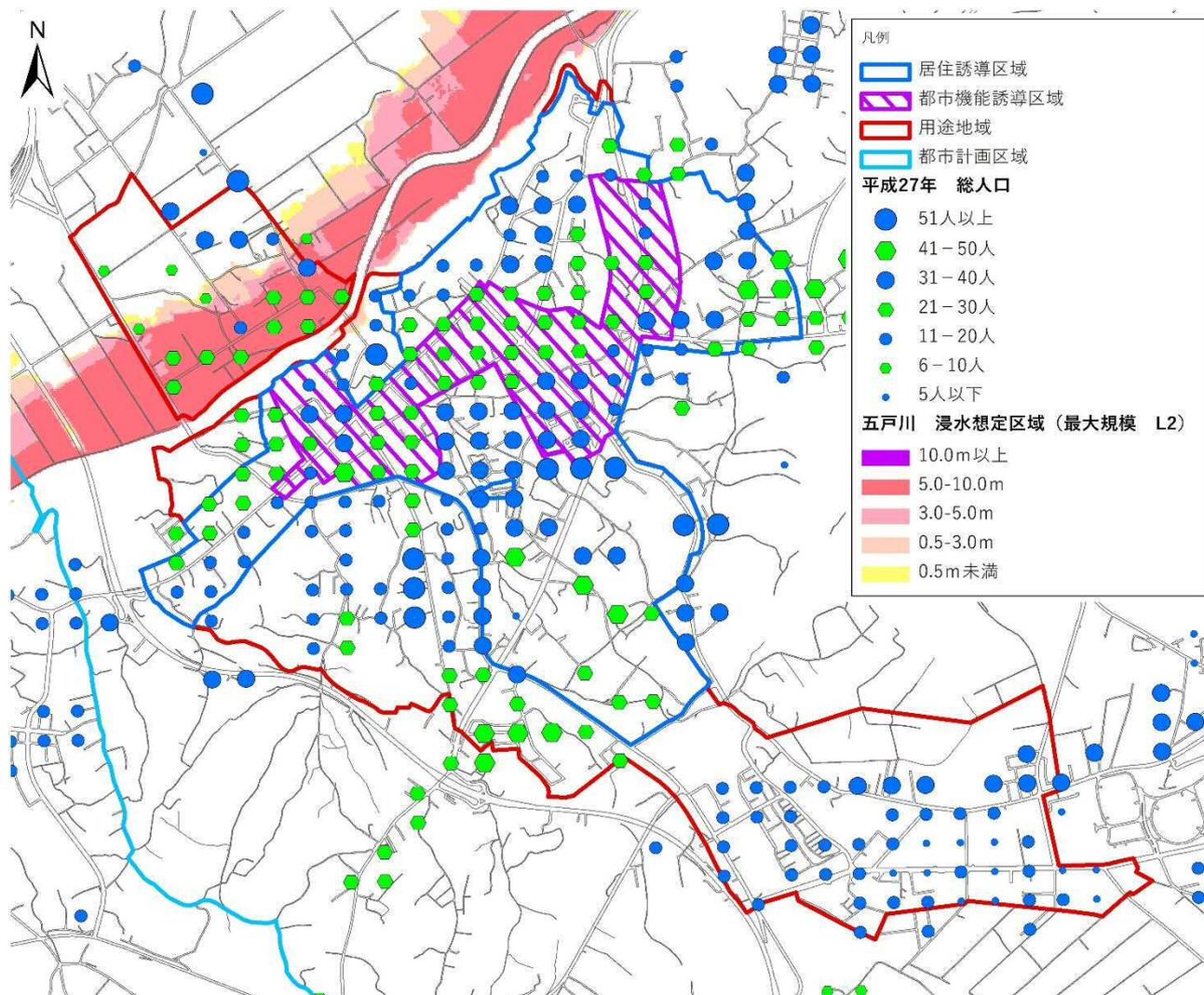


図 浸水想定区域と人口密度（想定最大規模（L2））

資料：県浸水想定区域データより作成

②浸水想定区域（想定最大規模（L2））× 都市機能増進施設

五戸川の氾濫による浸水想定区域（想定最大規模（L2））と都市機能増進施設の分布状況を以下に示します。

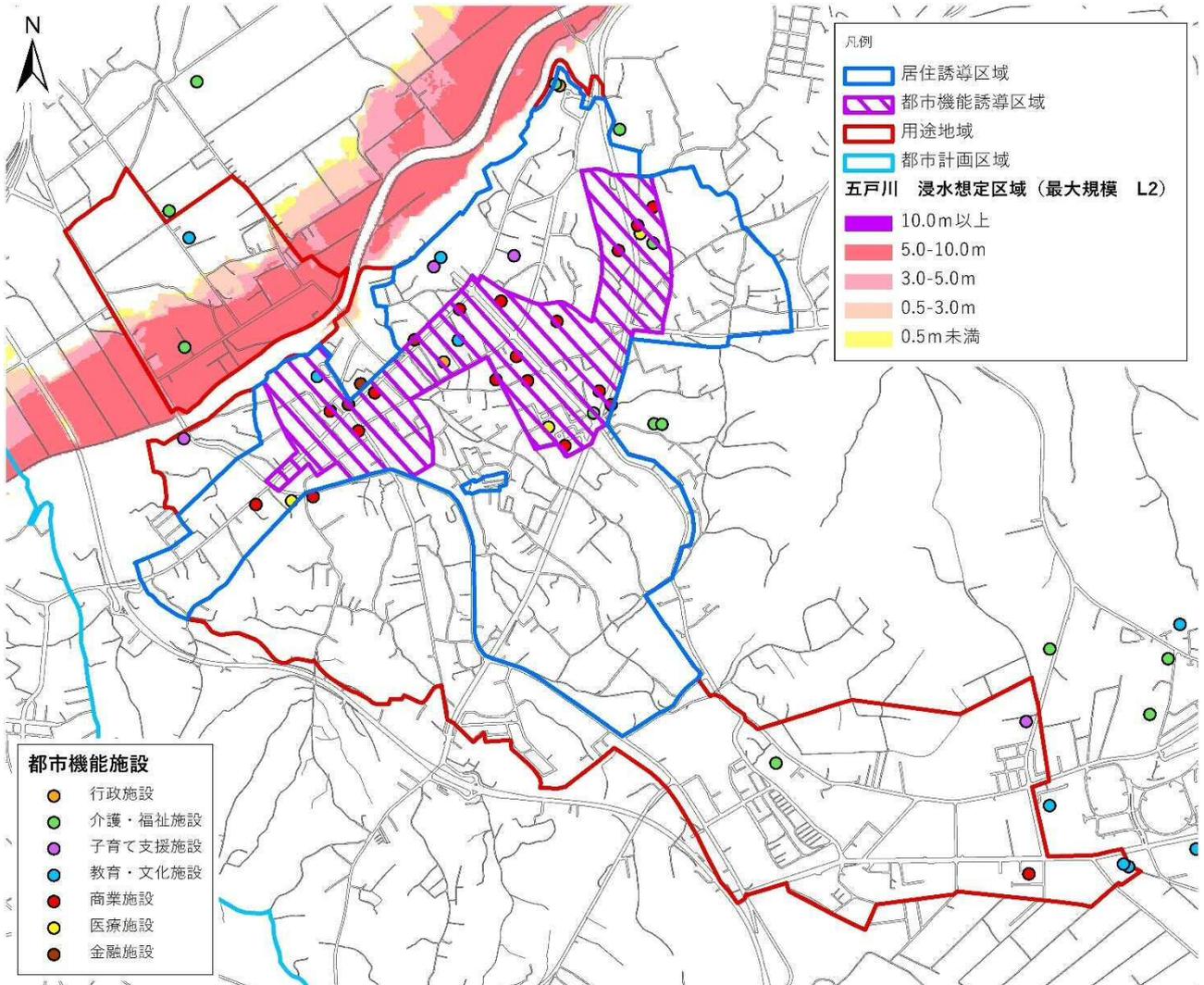


図 浸水想定区域と都市機能増進施設（想定最大規模（L2））

資料：県浸水想定区域データより作成

③浸水継続時間 × 人口密度

五戸川の氾濫による浸水継続時間と平成27年の人口メッシュを以下に示します。

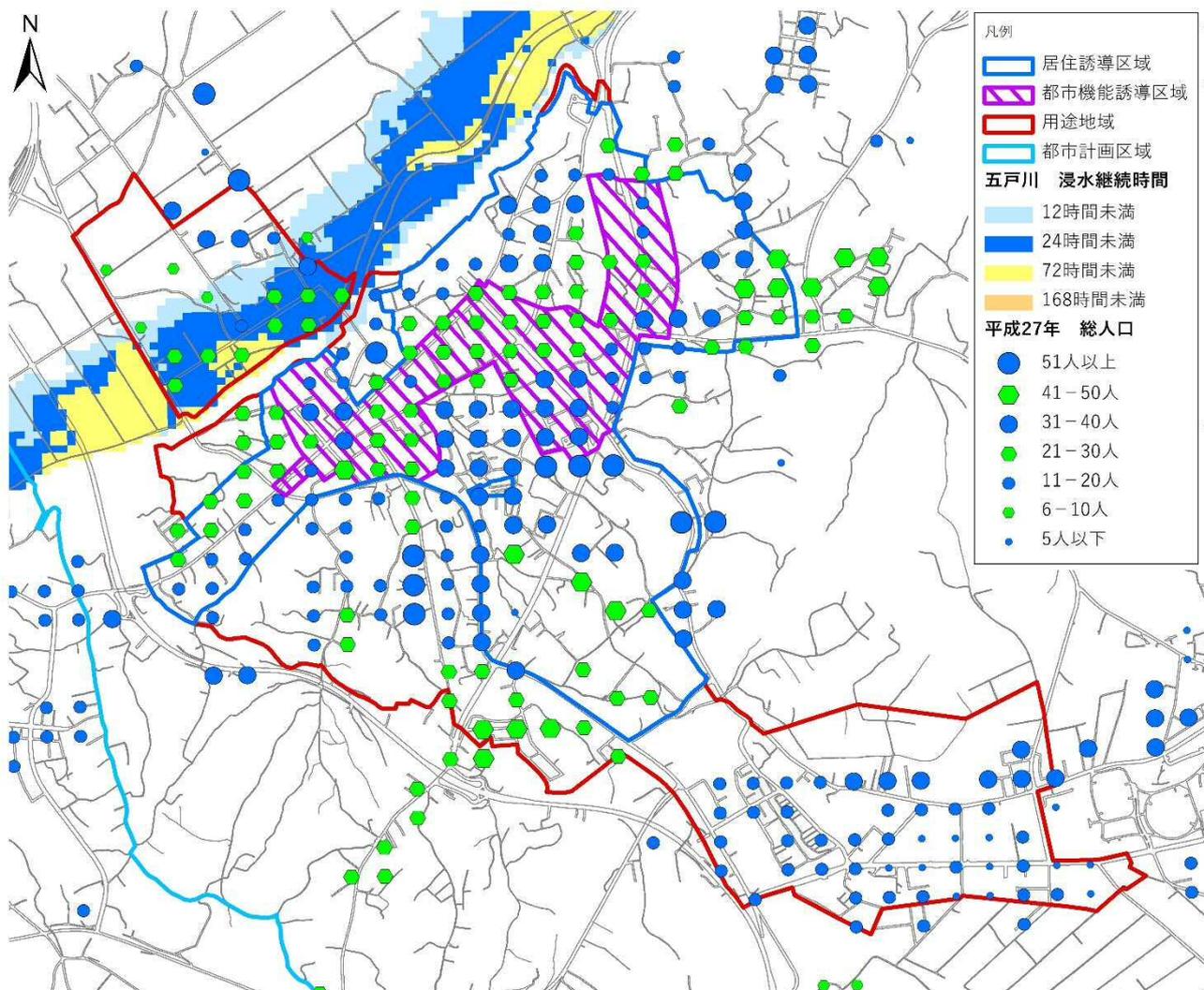


図 浸水継続時間と人口密度

資料：県浸水想定区域データより作成

④浸水継続時間 × 指定避難所

五戸川の氾濫による浸水継続時間と指定避難所を以下に示します。

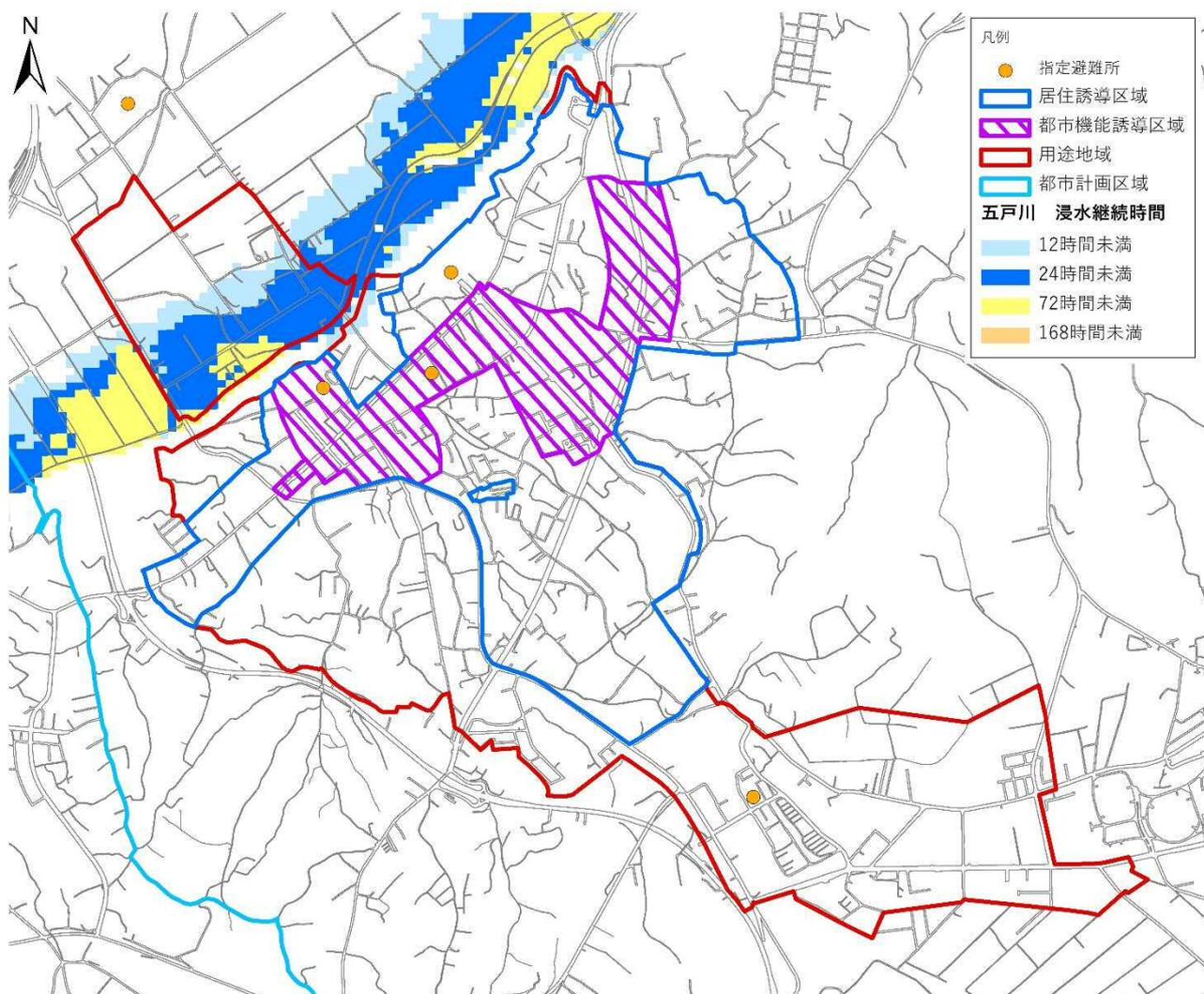


図 浸水継続時間と指定避難所

資料：県浸水想定区域データより作成

⑤家屋倒壊等氾濫想定区域 × 人口密度

五戸川の氾濫による家屋倒壊等氾濫想定区域と平成27年の人口メッシュを以下に示します。

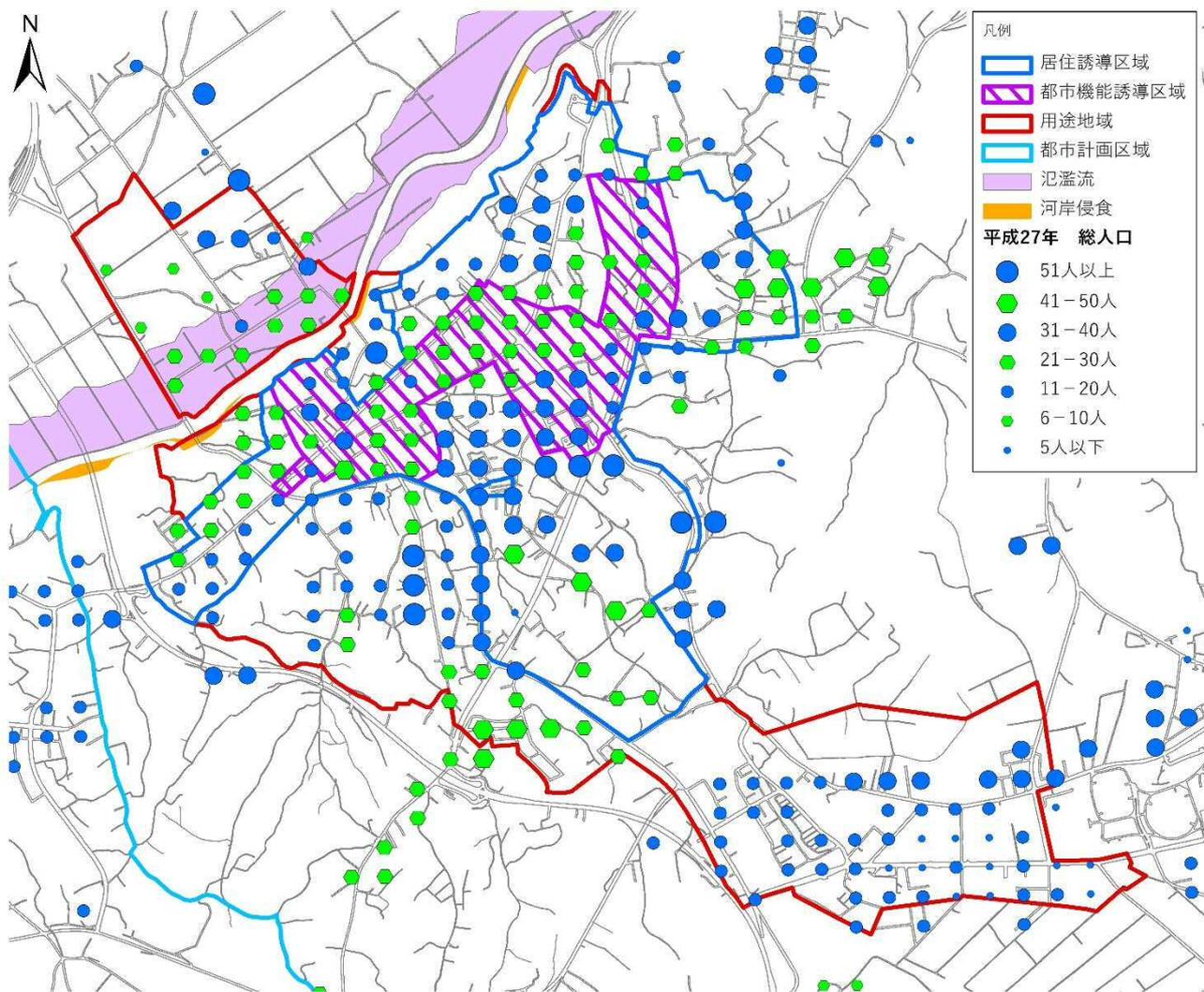


図 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流、河岸侵食）と人口密度

資料：県浸水想定区域データより作成

⑥家屋倒壊等氾濫想定区域 × 都市機能増進施設

五戸川の氾濫による家屋倒壊等氾濫想定区域と都市機能増進施設の分布状況を以下に示します。

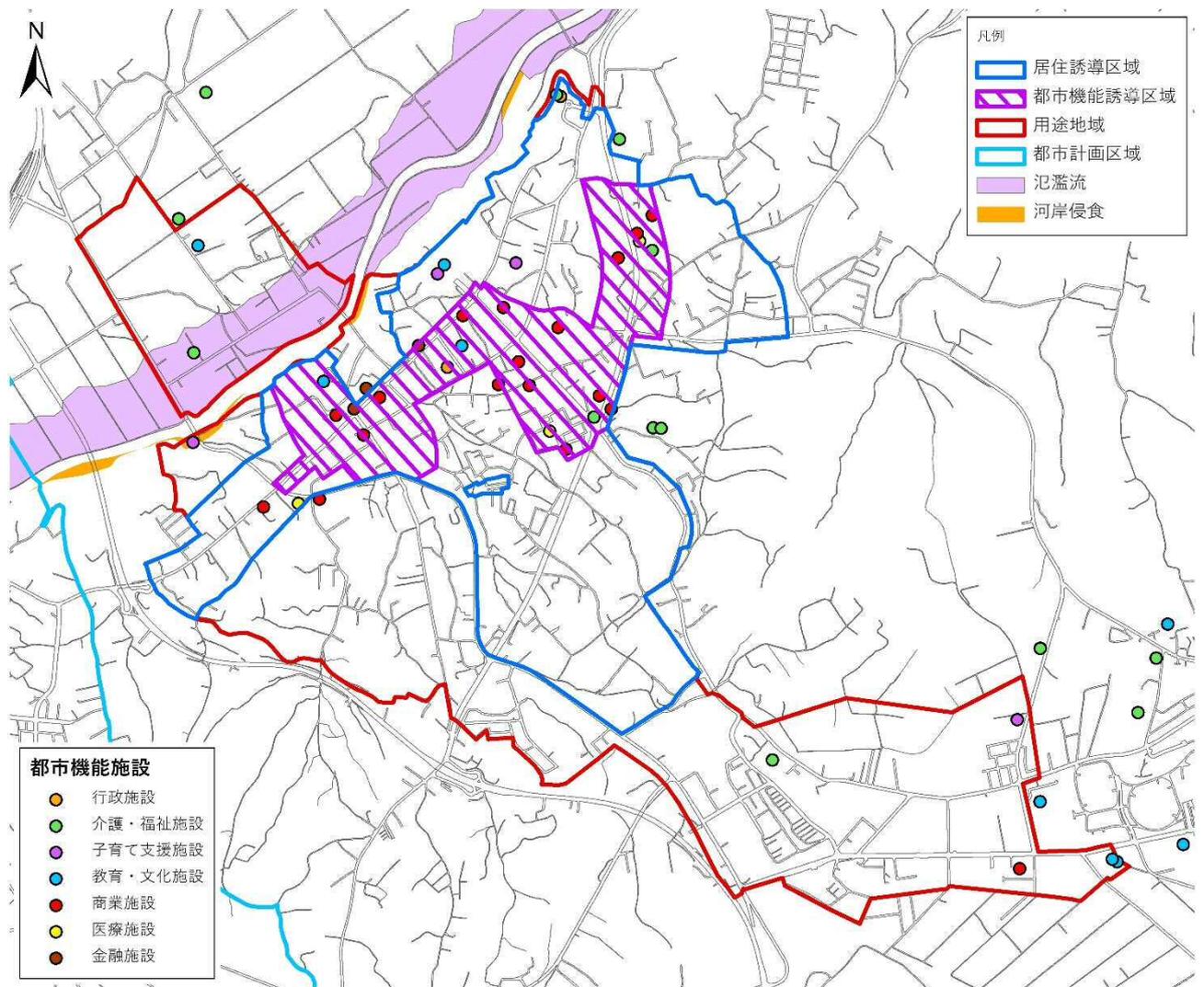


図 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流、河岸侵食）と都市機能増進施設

資料：県浸水想定区域データより作成

10-3-2 防災上の課題の整理

五戸町は居住誘導区域と都市機能誘導区域の設定において、浸水想定区域、家屋倒壊等氾濫想定区域及びレッドゾーン・イエローゾーンを除外しています。誘導区域に災害リスクはないことから、防災上の取組みを講ずることは必要ないと考えられますが、用途地域を対象とし、災害ハザード情報や災害リスクの分析により、防災上の課題を次のとおり整理します。

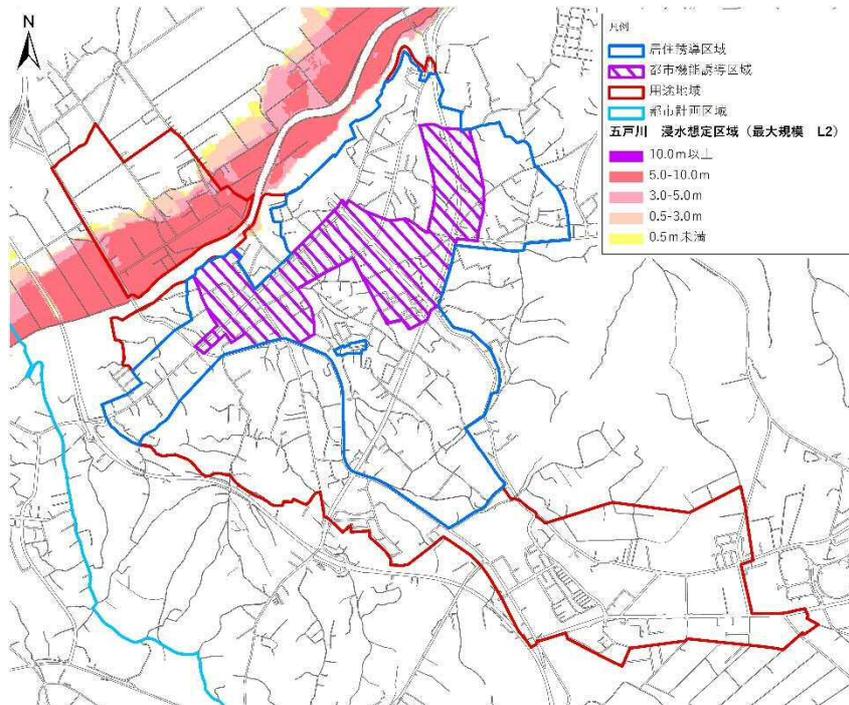


図 各誘導区域と五戸川浸水想定区域（想定最大規模（L2））

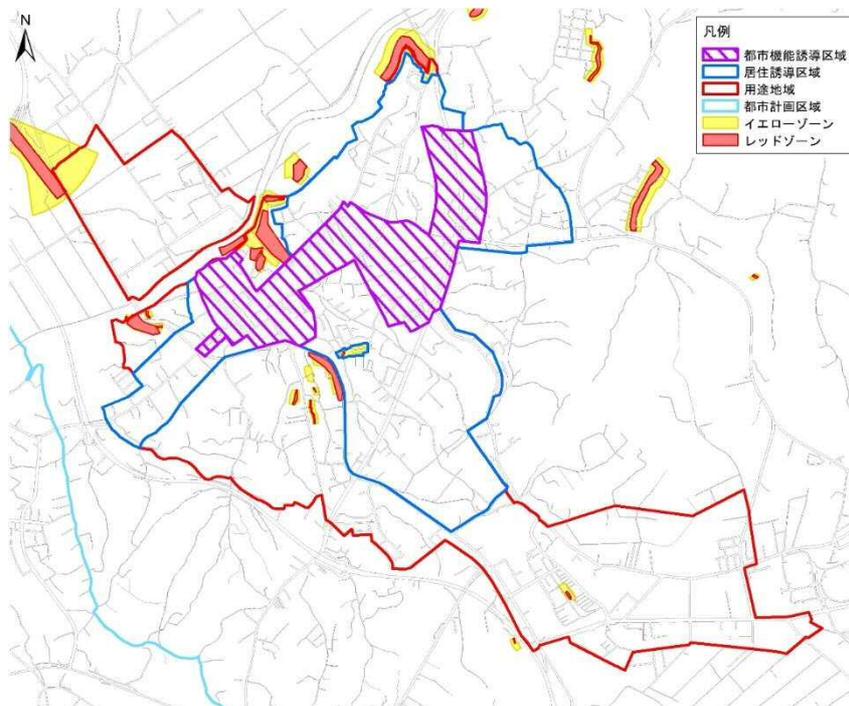


図 各誘導区域とレッドゾーン・イエローゾーン

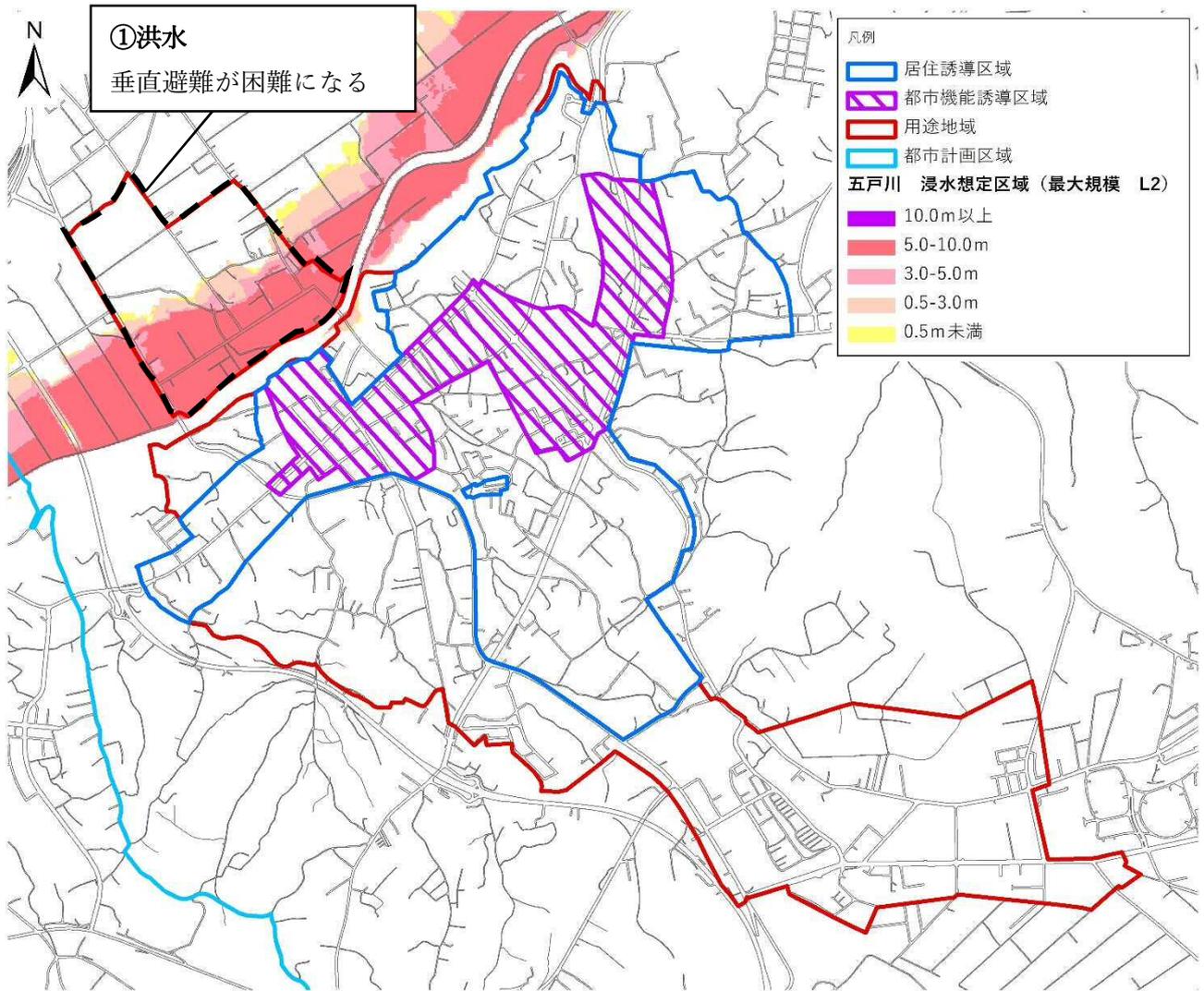


図 防災上の課題 (浸水)

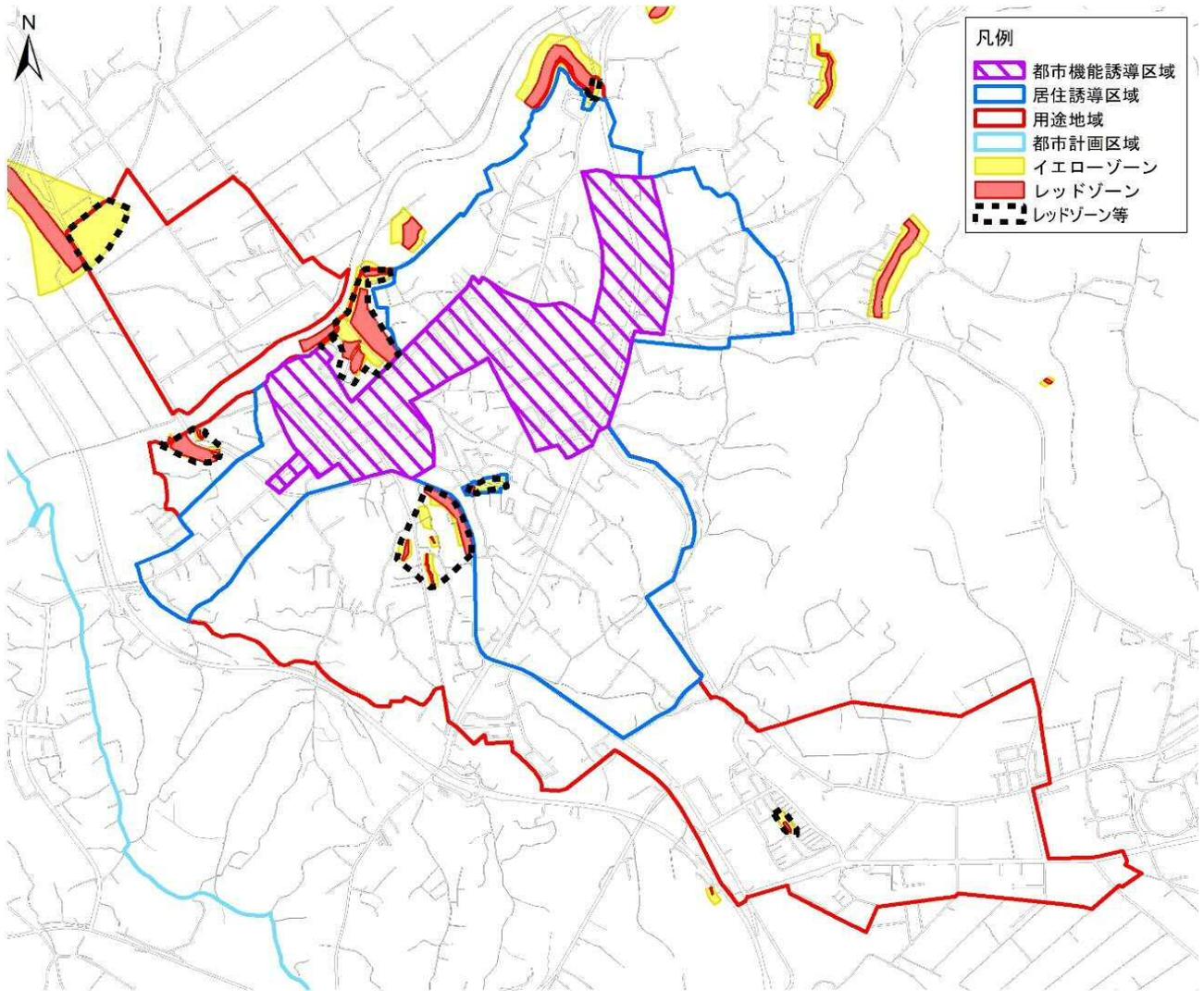


図 防災上の課題（レッドゾーン等）

表 防災上の課題

災害	No	課題
洪水	①	浸水深5.0m－10.0mは一般的な家屋の2階が水没する恐れがあるため、平屋建てや二階建てなどは垂直避難が困難になることが想定され、発災後の避難行動にリスクが伴う。
レッドゾーン等	②	急傾斜地崩壊危険区域として指定され、雨や地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる恐れがある

10-3-3 防災まちづくりの将来像

課題の整理で示しているとおり、五戸町の用途地域において洪水による浸水と急傾斜地崩壊が想定されています。そのため、本計画における防災まちづくりでは、各種の対策による災害リスクの低減を図ることにより、地域住民の安全・安心な社会を構築することを目指します。

10-3-4 取組方針

防災まちづくりの将来像の実現に向け、各地区の取組方針を以下のとおりとし、災害リスクの低減に努めます。

表 取組方針

地区	災害	課題	方向性	方針
A	洪水	平屋建てでは垂直避難が困難	低減	・災害情報を周知するとともに、浸水深を考慮した階層の建築を促す。
B	レッドゾーン等	急傾斜地崩壊の恐れがある	低減	・レッドゾーン等を周知するとともに、レッドゾーン等を表示する看板等の設置を検討する。 ・レッドゾーン等から居住誘導区域への自発的な移転を誘導する。

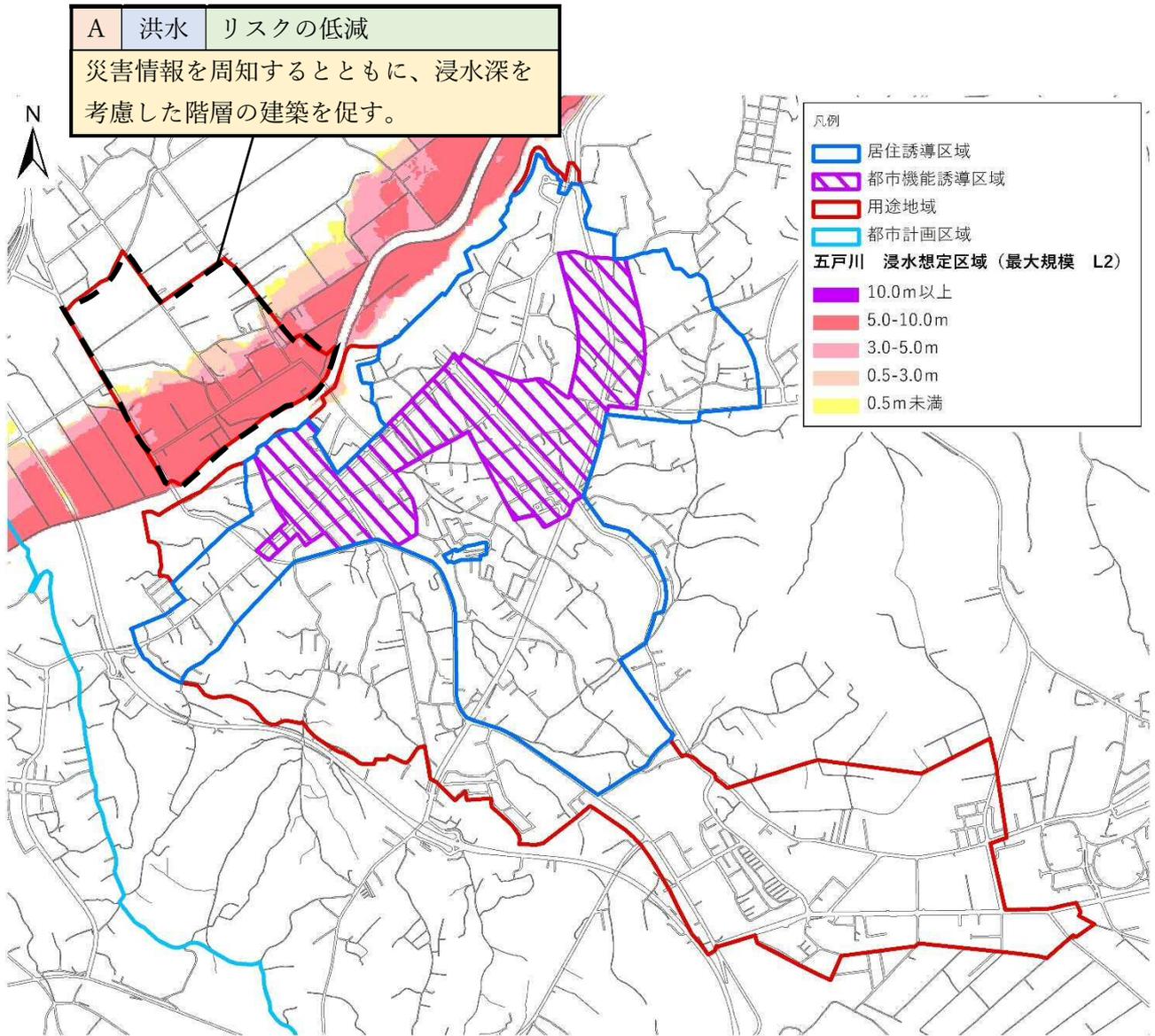


図 取組方針（浸水）

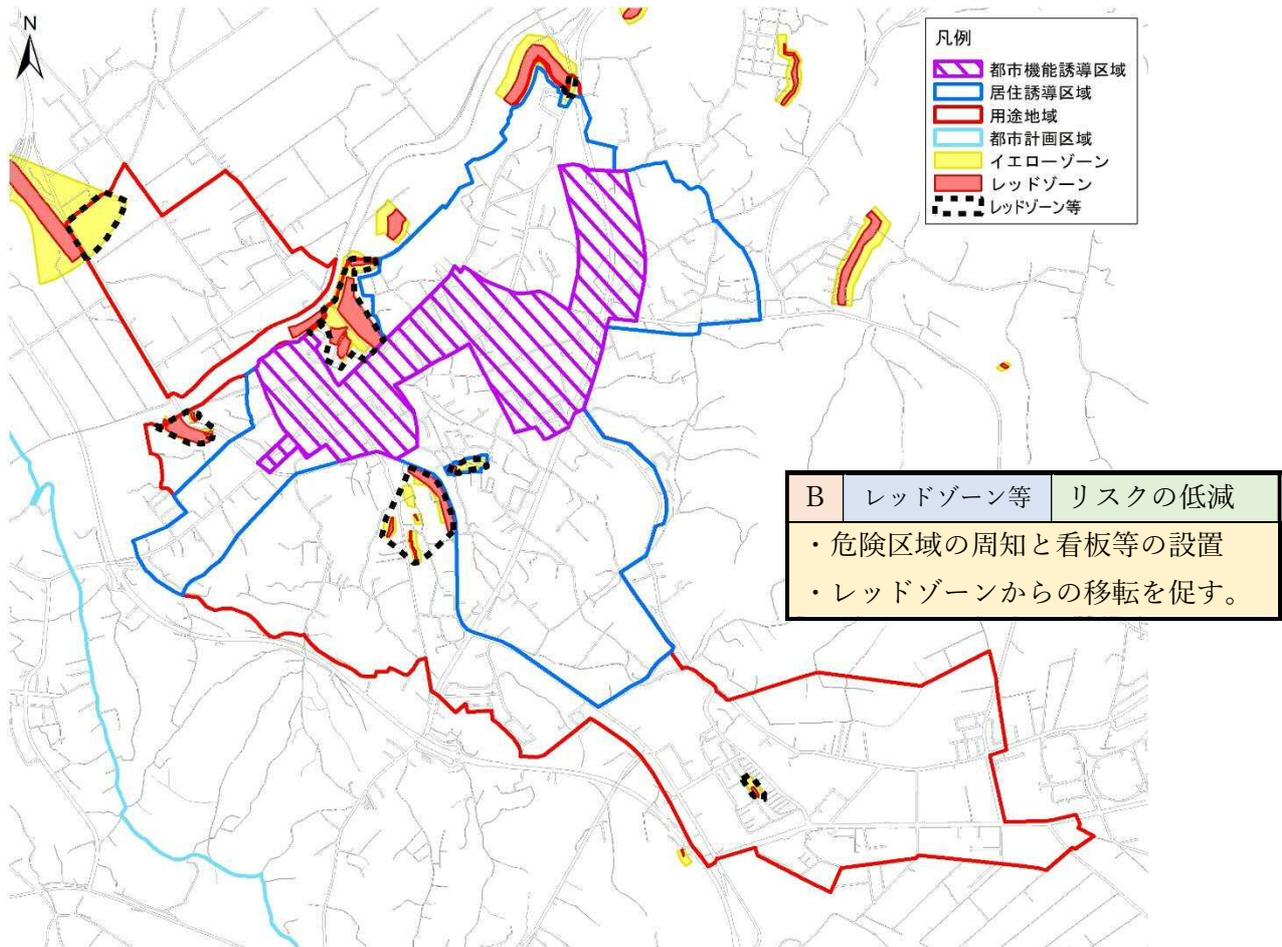


図 取組方針（レッドゾーン等）

10-4 具体的な取組、スケジュール、目標値の検討

10-4-1 防災に関する具体的な取組とスケジュール

取組方針に基づく具体的な取組とスケジュールを、以下のように設定します。

表 具体的な取組とスケジュール

地区	具体的な取組	実施時期		
		短期 (5年)	中期 (10年)	長期 (20年)
A	・ 浸水時に安全に利用可能な避難ルートの設定	→		
	・ 洪水に対する安全な建築物の情報提供	→		
	・ 浸水深を考慮した階層の建築を促す	→		
	・ 災害時の危険情報の早期発信	→		
	・ マイタイムラインの作成による避難計画の強化	→		
	・ 防災マップの周知による災害危険性の認識向上	→		
B	・ レッドゾーンの周知	→		
	・ 看板等の設置	→		
	・ レッドゾーンからの移転	→		

10-4-2 目標値の設定

本計画における防災指針の目標値は、以下のように設定します。

表 防災指針の目標値

指標	定義	基準値	目標値
避難訓練の実施	町が実施する避難訓練の回数	年1回	年1回開催の継続
ハザードマップの更新	町内河川の浸水想定区域が見直された場合、防災マップを更新	令和3年2月	数年で更新
自主防災組織率	世帯数に対する組織されている地域の世帯数の割合	62.9%	75%